



学校便り

平成26年度—NO.12

最終号

## 平成26年度を終えるにあたって

ご支援とご協力を有り難うございました

校長 濱田 康助

平成26年度も、今日の修了式をもって終わりました。また、先日の卒業証書授与式では、66名の卒業生が落ち着いた雰囲気、立派に本校を巣立っていきました。これもひとえに、ご家庭や地域の皆様の本校へのご理解のお陰と感じております。

本年度の学校便りの最終号として、私が卒業生に贈った式辞の一部(抜粋)を紹介させていただきます。

それは、「人はなぜ学ぶのか」ということです。NHKの大河ドラマで、現在、日本の幕末から明治維新の激動期を生き抜いた吉田松陰の妹(ふみ)を主人公とした「花燃ゆ」が放送されています。私はこのドラマの初回の放送で、吉田松陰や小田村伊之助が、藩の学校である「明倫館」で多くの塾生を前に、「人は何故学ぶのか」「何故学ぶ必要があるのか」を説いた場面がありました。私はその言葉が今も強く心に残っています。

「人は何故学ぶのか、学ぶのは知識を得るためでも、職をえたり、出世のためや人にものを教えたり、人から尊敬されるためでもない。己のため、己をみがくために、人は学ぶ」と、さらに、「学ぶのは、己をみがき、この世の中ののために、己のすべきことを知るために学ぶ、そして、この国の役に立ちたい。そのために学びたい、もっともっと学びたい。」と結んでいました。世の中のしくみや世界の状況などが全く違うなかで言われた言葉ではありますが、学ぶということの意味は、現在もまったく同じではないかと、私は思っています。

生まれてから今日まで、みなさんはいろいろなことを学んできたと思います。しかし、一人ひとりの将来はどのような大人になろうと考えていますか。またどのような仕事をしていこうか考えられていますか。学ぶと言うことはそれらを決定し、行っていく力を自分自身に付けることです。

「学ぶこと」は、自分自身が生きている(生かされている)意味を見つけることだと言っている訳です。だからこそ「学び方」も一律ではなく、人によって違って当然なんだと思います。

また、先日、書店の店頭で「JAPAN CLASS それはオンリーインジャパン」という題の本(第3版)を見つけ、おもしろそうだったので購入しました。内容は、外国人から見た「日本の良さ」について書かれています。日本では当たり前のことが、外国人には「素敵な驚き」として受け取られる事柄がいろいろと書かれていました。単純ですが、私は日本人として、この種の本を読むと嬉しく、また、誇らしくも思います。改めて日本人の素敵さに気づかされ、それらのことを大切にしていきたいとも思います。

私は、武庫小学校に勤務したこの5年間で、いろいろな学びや気づきをさせていただきました。それは、尼崎やこの武庫地区を愛し、地域の良さを伝えるために、いろいろと活動されている多くの方々と出会わせていただいたことです。地域にある財産(素敵だなと思ったり感じたりすること)を大切に、それらを守り・伝えようと努力する皆さんです。自分たちの住むこの地域の良さに自信や誇りをもった方々です。

私は子ども達に、自分の生まれ育った家庭や学校、地域を愛し、誇らしく思えるように育ててほしいと願っていますし、そのように育てなければいけないと思っています。

保護者や地域の皆様には、いろいろな場面を通じて、本校の取り組みにご支援・ご協力をいただきましたことに、校長として、厚く御礼申し上げます。本当に有り難うございました。

来年度も武庫地域の担い手の育成に頑張りますので、よろしく願いいたします。